



ゲシュタルト心理学で利用される多価図形

上の図は、ゲシュタルト心理学で工夫されたアヒルに見えたりウサギに見えたりする図です。この図は、アヒルに見えたりウサギに見えたりしますが、同時に両方見えることはありません。一方の図形が見えていたのに、突然もう片方の図形が見えてくることをゲシュタルト心理学の用語でゲシュタルトシフトといいます。こういうゲシュタルトシフトが生じるためには、この図形を見る人はアヒルとウサギがどんなものなのかを前もって知っておく必要があります。ゲシュタルト心理学者は、アヒルもウサギも知っている人を対象にこんな図を工夫したのです。

これからしようとするお話はゲシュタルト心理学のお話ではなく、アヒルしか知らない人とウサギしか知らない人が同時にこの図を見たらどうなるかというお話です。この二人の間に「相互理解」は可能でしょうか。お互いが相手を思いやるためにはどんな心構えが要るのでしょうか。そんなお話をしようと思っています。

なお、最近私はこんな二人がどうすればお互いに理解しあえるのかということに関する本を書きました。末尾に参考書としてあげておきます。「国際(異文化)相互理解」に興味のある人は、ぜひ読んでみてください。

Rabbit or Duck?

2006年 **12月16日** [Sat]
12:30-17:00 修了証授与式の後終了

高知大学 朝倉キャンパス
共通教育 1号棟 115 番教室

講師：川崎 謙 高知大学教育学部・教授

講談社：選書メチエ『神と自然の科学史』の著者による比較科学論への招待

【主な募集対象】高校生向け 約 50 名

【参加費】無料

【申込締切日】2006年 **11月24日** [Fri]

*参加者は、英和辞典をご持参ください。

【お問い合わせ先・参加申込先】

高知大学 国際・地域連携センター 生涯学習部門

担当：小林 克巳

〒780-8520 高知市朝倉本町2丁目17-47

TEL:088-844-8418 FAX:088-844-8556

E-mail : jm-kkatsumi@kochi-u.ac.jp

世界が見える

が分かれば

君の見ている自然って……？ —ことばを通してみる世界像—

ことば